

科目名称	基礎整復技術実習
授業コード	AF116
英語名称	Basic reduction technical practice1
学期	2024年度通年（前・後）
単位	2.0
担当教員	鎌塚 正志
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>本講義では体表観察における骨・筋について学ぶ。 柔道整復の施術を行う上で問診、視診と共に触診は損傷を評価する上で最も重要な診察手法の一つである。 解剖学で人体の骨・筋を学ぶが、体表観察では骨格・筋の構造を2次元的な理解から3次元的な捉え方に変えるため、骨や筋をさらに詳しく理解することができる。さらに、視診・触診から人体構造、各部位の形状や特徴を修得することができる。 本科目では担当教員の臨床経験による触診技術と基礎解剖学を交えながら実習を進める実践的な科目である。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>接骨・整骨院、整形外科で勤務した経験を持ち、トレーナー活動で多くの外傷・障害を治療、経験してきた。また、スポーツ外傷・障害の治療・予防を研究分野に活動している。これらの経験を活かし講義する。</p>
到達目標	<p>カリキュラム・ポリシーに掲げる「人体に対する幅広い知識と視野を育成する」が実現するよう、下記の柔道整復の基礎知識・技術を身につける。</p> <p>柔道整復師にとって重要な解剖学的知識である骨・筋の名称や部位（筋の起始・停止、作用、神経支配）を修得し、体表観察においてランドマークとなる骨・筋の位置を正確に触診することができる。 人体を構成する筋骨格がどのような構造・位置関係にあって作用するかを理解し説明できるようになる。</p>
計画・内容	<p>第1回：ガイダンス、骨表面の形状、全身の骨格および位置と名称</p> <p>第2回：鎖骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第3回：肩甲骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第4回：上腕骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第5回：橈骨・尺骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第6回：手根・中手・手指骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第7回：上肢帯まとめ</p> <p>第8回：中間試験（筆記・実技試験）</p> <p>第9回：骨盤（寛骨、仙骨）の形状および部位の名称と体表解剖</p>

計画・内容	<p>第10回：大腿骨、膝蓋骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第11回：脛骨、腓骨の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第12回：足根、中足、足趾の形状および部位の名称と体表解剖</p> <p>第13回：下肢帯まとめ</p> <p>第14回：定期試験（筆記・実技試験）</p> <p>第15回：総括</p> <p>第16回：肩関節機能解剖</p> <p>第17回：肩関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第18回：肘関節機能解剖</p> <p>第19回：肘関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第20回：手関節機能解剖</p> <p>第21回：手関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第22回：中間試験（筆記・実技試験）</p> <p>第23回：股関節機能解剖</p> <p>第24回：股関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第25回：膝関節機能解剖</p> <p>第26回：膝関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第27回：足関節機能解剖</p> <p>第28回：足関節に付着する筋の起始停止・作用および体表解剖</p> <p>第29回：定期試験（筆記・実技試験）</p> <p>第30回：総括</p> <p>担当教員：鎌塚（全30回）</p>
授業の進め方	<p>教科書、配布資料に沿って授業をおこない適宜、視聴覚教材を用いる。 パワーポイント等を利用し授業内容を確認し、実習・演習・課題に各自取り組む。</p>
能動的な学びの実施	<p>自ら学ぶ意識を忘れずに課題に取り組み、積極的な授業態度が期待される。 グループに分け、実習や演習を適宜行う。 課題についてディスカッションを行い、知識・技術の修得に導いていく。</p>
授業時間外の学修	<p>予習：教科書や参考書の該当頁を通読すること。（60分） 復習：授業で学んだ骨・筋をまとめ、レポートにまとめる。（1時間15分） レポートは次回授業のはじめに提出すること。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 「解剖学 改定第2版」 監修：全国柔道整復学校協会 発行：医歯薬出版</p> <p>【参考書】 「柔道整復師 ブルーノート・基礎編」 監修：平澤泰介、発行：メジカルビュー</p>

教科書・参考書	
成績評価方法と基準	定期試験（60％）、課題レポート、中間テスト、積極性（40％）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	レポートの評価、コメントを付与して返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自ら学ぶ姿勢をもって実習に取り組むこと。 ・自ら学びに組み、他学生と協力し合い各授業で目的意識をもって受けること。 ・シラバスを確認し、予習・復習を行うこと。 ・原則、全授業に参加することを求める。 ・初めて基礎医学を学ぶ学生がほとんどであると思うが、模型や人体（骨・筋）に多く触れ、部位や名称を覚えること。覚えきれないと感じる人がいると思うが、諦めずに繰り返し取り組んでほしい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 通信媒体（Zoom）、Web Class）を利用したオンラインまたはオンデマンド授業、課題授業にて講義を行う。</p> <p>成績評価方法と基準 出席（30％）、授業で提示する課題レポート・オンライン試験(70％)などを総合して評価する。</p>